

のこが生へて利益であるから——。然し物事には一得一失が伴ふもので、其の缺點とする所は餘りに鞭根が浅いために、土の中に深く埋もれたたけのこを得難いことである。

### 老人の子は影薄し

恩師齋藤滋賀縣林務課長は、嘗て京都府林務課長の時、親しく孟宗畑を發掘して、鞭根の生活年限を發表せられたことがある。それによると、孟宗竹の鞭根は三年目乃至六年目に於いて、其の勢力が最も旺盛であり、八九年目頃ともなると遂に腐朽に傾き、十二三年目にもなると、夫が全く腐朽して仕舞ふものである。それも勿論土地の状況によつて、例年のあることは當然であらうが、大體に於て鞭根の年齢が八九年にもなると、すでに腐朽に傾き——人間で云へばお婆さんお爺さんの域に達したものだを見て、そう大した相異はないことであらう。お婆さんに子供を生めと望むのは、

恰も木に縁つて魚を求むるの類で、望む方が寧ろ無理である。そんな古い鞭根からは無論たけのこも出まいが、萬々一生へたとしても、それを親竹として残すのは、茲に論ずる迄もなく不得策のことである。八九年に近い鞭根から出たタケノコも、亦親竹として残すのには不適當である。それはお婆さんになる事が早いから——。どうしても鞭根の年齢が若くて、勢力の盛んなをして發筍力に富むたものから出たタケノコを親竹として残さなければならぬ。

地中深い鞭根から生へた晩生の大きいタケノコを親竹にすると、其の鞭根からは深く地中に埋もれたよいタケノコが生へて、非常に理想的のやうではあるが、斯様な所を通つてゐる鞭根は大低年齢が古い、老人の子影薄しとか、古鞭根からはタケノコの生れることが少く、そして、體質も何れかと云へば弱いのが常である。そんな古い鞭根から生へた晩生タケノコを親竹としてはいけない。のみならず、筍の出る時期も遅いものだから——。

天道人を殺さず

高遠な理想に向つて、一步一步進むことによつて、そこに物事の進歩があり——  
發達がある譯である。一例を擧げて見ると孟宗畑の親竹である、めくらめつ法にタケ  
ノコを残して、それを親竹にするだけでは、人間の仕事としては餘りに不甲斐なさ過  
ぎる、苟くも經濟的に經營するものであるなら——。頭を働かせて須らく親竹として  
は、至極丈夫であつて、繁殖力が盛であり、なほ慾を云へば好いタケノコを生むも  
のを選定せなければならぬ。こんな理想的の親竹になる筈は、果してどんなもの  
だらうか、之れ等しく當業者の知らんと欲する所であり、又聞かんとする所であら  
ばならぬ。

親竹として理想的な筈、それは云ふ迄もなく年齢が若くて——勢力の盛んな鞭根  
から生へたものでなければならぬ。古いものから出たものは發筈力が鈍いから——。

年齢が若くて勢力の盛んな鞭根でも、地表近い所をとほつてゐるものでは感心が出来  
ない、地中にある部分の少い筈しか出来ないから——。親竹の選定上必要な問題は  
何と云つても、其の鞭根の老幼、強弱、深淺の状態であるが、神ならぬ人間では地  
中の事であるから、夫れは掘つて見るより外的確に知る術がない。天道人た殺さ  
ずと、研究に研究を重ね、經驗に經驗を積んだ人に、天は斯う云ふ尊い福音を傳へた  
よいたけのこを能く生み、そして丈夫な親竹になるたけのこは、その畑に於てたけの  
この出盛前のものであると。何れかと云へば先づ早生タケノコの部であらう。斯う云  
ふタケノコさへ親竹として残せば、鞭根を掘つて見る迄もなく、ちやんと理想的の鞭  
根から生へたタケノコだと、そう考へても大した間違ひが無いものである。

貧乏人の子澤山

最初に生へたタケノコは親竹としては、繁殖力の方から云へば適當だらうが、其

親竹から生へ出るタケノコが餘りよくない。さりとて遅生へのものを親竹とすれば、タケノコの出る時期が遅れ、生産力が鈍いから面白くない。だから出盛り前の早生タケノコを親竹にせよとは、既に述べた所であるが、そんな時期は、無論土地、地勢、氣候によつて異なるのではあるが、先づ四月の上中旬頃位なものではなからうか。其時期に生へたタケノコの中で、大さ中庸のものを選んで親竹に残すのがよい。

親竹としては大さいタケノコに限ると都合點して、太いものを——甚だしきは晩生の大きいものをのみ残して、親竹とし得々としてゐる人があるが、夫れが果して賢明な策だらうか、人間に譬ふればそんな太い竹は、財産持ちの富豪とも云へやう、富豪は一般に貧乏人に較べて、出産率が低いものである。貧乏人の子澤山——貧乏神の子澤山などと、こんな諺の生れた所以である。其の證據にはちやんと貧乏人の私などに子供が澤山生れてゐる。動物にしても亦餘り肥え過ぎてくると、卵を生なく——子供を生なくなる相である。

孟宗竹を人間や動物と一所にして、味噌糞式に結論を下すのは、どうしても感服出來ないと云ふ人が無いとも限らないが、事實に於て、貧乏人則ち太くない竹が却つて子供を澤山に生むものである。それだと云つて、貧乏過ぎた餘り細い親竹では子澤山で親のすねが細つて、一人前に育て上げることが出来ないから、そんなのは例外たること勿論である。先づ親竹としては、胸高周圍一尺内外のものであれば充分であらう。孟宗タケノコの栽培が盛んな所を見ると、其の具合は一目瞭然と判るものであらう。

若返り

生れつき體質の虚弱な人ほど、老後のことを考へ、相續者のことなどに能く氣を留めるものである。丈夫な人は一向平氣でそんなことなどには頓着せないものだけに——。此現象は獨り人間のみでなくて一般生物の通有性らしい。試に山に植えられ

た杉を見ても、適地のものは元氣旺盛に生長して、結實のことなど頓と意に留めてゐないやうだが、不適當な土地に植込まれて、緩慢な生長を營むでゐるものは、未だ歳も若いのに肉は落ち骨は現はれて、早や結實を始めてゐる、甚だしいものになると、丁度鈴のやうに種子がなつてゐる。之れが取りも直さず斯かる不適當な境遇に置かれた爲めに、自分の命もそう長くは續かうまい、如かず後繼者たる種實を造つて、子孫の繁榮を計るに――。數箇月を一生とする稻又は麥に就て見ても、地味肥沃な所のものは開花結實を急がない、――にも係らず瘠地のものは開花結實が早いものである。普通吾人が重要なりとし、有用なりとしてゐる竹種は、概ね三年生の時に筍を産むことが盛であつて、尙ほ五年生位迄は多少の差こそあれ、發筍を持續して行くのであつて、六年生ともなると其力は頓に減退し、又は其力は全く消失するものである。孟宗竹にしても亦其例に漏れないのであるが、然し適當な土地であるが、又は充分に肥料を施し手入を懇にする、所謂若返ると云ふのか知らむ、歳の割合に若々しく

若々しい丈けに勢力も盛んであり、従つて筍も亦盛に生むものである。往々他の竹に開花を見、又其事を耳にするのであるが、孟宗竹に其話を聞くことが少ないのは、或はこんな原因からではなからうか。

四十までは子をはらむ

毎年親竹として何本位の筍を残すのが最も適當だらうか、此問題の前に當つて先づ順序として、親竹を孟宗畑に立て、置く期間、言葉を代へて云ふと、何年生位迄存置して、何年生位のものゝ伐採するのが、經濟上最も有利だらうか。之れは經營者の最も意を拂はなければならぬ問題である。それは發筍力の旺盛な時代だけ、孟宗畑の親竹として保存し、其力が衰へかけた時分に伐採すればよい。と云ふのは間違のない立派な理論には相違ないが、實際に於ては中々六箇敷い問題である。土地、培養……、其他の相違で一様でないから――。尙ほ竹の一本々々に就て云へば、丁度婦人

の三十歳にして子供の出生を終る者があり、尙ほ四十歳にして子供を儲けるものがあり、時としては五十歳近くにして、子供を生む人がある様に、決して一定したものではない。

京都附近などでは六七年生迄親竹として、孟宗畑に置き、七八年生のものを伐採するのが通則のやうであり。東京目黒附近では、七年生から十年生位迄を伐期としてゐるやうである。普通孟宗竹林則ち竹材の採收が主眼であるものは、四五年生を伐期としてゐるのであるが、孟宗畑では周到な培養が講せられて、親竹の總てが若返つてゐる上に、若く竹の勢力が旺盛であり、従つて筍を生むことが盛んな爲めに、斯くは長く親竹として立てるのである。それと竹林作業では竹材の利用價値と云ふことも考へて、伐竹年齢を割出さねばならないのだが、孟宗畑ではそんなことは眼中に置かないと云ふ關係もあらう。

人間が概ね四十歳位に達すると、繁殖能力が衰へるやうに、孟宗竹も亦六年内人間が概ね四十歳位に達すると、繁殖能力が衰へるやうに、孟宗竹も亦六年内外になると、葉色も衰へ其數も減るものだから、此年齢位を伐竹年齢とすればよからう。但し被害竹——若朽竹を除伐することは勿論である。

### 老ひたるを父とせよ

奮闘家は結婚後僅かに一年足らずで、早くも子を儲ける事があり、二年目に長子の顔を見て喜ぶものがあり、三年目に始めて親となるものがあるやうに、母竹を植付けると秋植では二年目、春植では其の年に、小さな筍が生へる事がある。可なり多く筍の生へない母竹のある事は勿論だ、それで其の生へた筍は其の儘にして採收しない、其の翌年になると概ね母竹一本から一二本のタケノコが生へるものである。中には四五本も出る母竹もあるが——。一本の母竹から二本以上タケノコの生へたものは、其の内から小さなもの、元氣の悪いものを採收して、母竹一本にタケノコ一本を残して親竹にする。其の翌年はなるべく母竹から離れて出た、太いやうなタケノコを

反當り五十本位残して親竹とする、爾後二年間位はなるべく畑地一面に配置よく親竹が立つやうに、太くて丈夫さうなタケノコを、一反歩に年々五十本位宛親竹として立てる、餘り多く親竹を残すと、之れに比例して鞭根の伸長が充分でないから——。猫が肥ゆれば鯉節が減るやうに。

斯様な調子で親竹を残して行くと、秋植では六年目——春植では五年目頃になると一反歩には彼れ之二百本餘りの立竹数になるから、そこで老たるを父とせよとは人間のこと、老てたけのこをうまない、初めに植付けた母竹、細小なもの、元氣のよくなものの、時としては若いものも伐採して、配置よく一反歩に百五十本内外を残して親竹とする。此の場合特に注意すべし事は、親竹が略二坪に一本残る位に、其の配置の具合と、それから、生へた歳の違つた竹を甘く按配する事である。

花多ければ實小なし

親竹の数が少過ぎると、鞭根が四方八方に廣がり得ないと云ふ嫌があるから、丁度現在の南米をつくりで人口が稀薄過ぎるために、土地の利用が甘く出来ないのと好一對である。それかと云つて現今のわが邦のやうに、狭い土地に人間がウヨ／＼して居ては、失業者が其處此處に續出するやうに、親竹が多過ぎると、鞭根が錯雜してのんびりとした生活が營めない、ためによいたけのこを多量に生産することは六箇敷い。それ計りではなく數多い親竹の枝葉によつて、土地に日光の射入が遮られる所から、自然たけのこの發生が遅れる不利が伴ふものである。それで親竹の過少はなほ資本の少きが如く、親竹の過多はなほ花多ければ實少なきが如くに、何れも不利益であるから、ともに具眼者の採らない所である。

一反歩の孟宗畑には何本位の親竹を最も適當とするのであらうか。必ずや、起るべき問題は之れであらう。京都附近などでは反當り百本位を適當とし、東京目黒附近などでは一反歩に二百本内外を置いてゐるやうである。所によつては反當り三百本内外の

親竹を立てゝゐるものがある。——やうに其の本数は實に千差萬別である、千差萬別こそ寧ろ理の當然ではなからうか。合理的に考慮せられた所からであつたとしたら——。地味のよい土地、若しくは充分に肥料を用ふる土地では、親竹の数を少くするのが適當であり、反對の所では親竹の数を増した方が得策であるやうに。無論一定し難いのはあるが、まづ一段歩に對して百五十本内外の親竹を置くのが適當であらう。一段歩の孟宗畑に百本以下、又は三百本以上の親竹を置くのは、何れも餘り有利な方法ではなからう。

杓子定規

孟宗畑一段歩に對して何本程のタケノコを残して、親竹とすれば宜しいか、とは能く當業者各位から發せられる質問である。今其の答を公式に組立てお答へすると次の如くである。

$$\text{一段歩ノ親竹數} = \frac{\text{一段歩ニ残ス年々ノ筍數}}{\text{伐竹年齡} - 1}$$

今假りに年々六年生のものから抜き伐りするものとし、一段歩の親竹總數を百五十本と假定すれば、年々親竹として一段歩に残すタケノコの數は、伐竹年齡の六年生則ち六と云ふ數から、一を減じて得た五と云ふ數を以て、親竹の數百五十本則ち百五十と云ふ數を除して得た商、則ち三十と云ふ數が數年残すべきタケノコの數である。

$$\text{一段歩ニ残ス筍ノ數} = \frac{150}{6-1} = 30 \text{本}$$

此場合には年々反當りに、三十本の筍を残して親竹とすればよい勘定になる。普通一雙歩の孟宗畑には、年々三十本内外のタケノコを残して親竹にすれば、そう大した誤りもなからう。適當なタケノコを反當り三十本立てるとして、其タケノコはどう云う具合に残せばよいか、無論一箇所計りに残してもよくない、集團的に此處に

五本——彼處に六本と、相接近させて置くのも亦適當ではない。理想から云へば全地積に平等に置くことである。平等に配置するのは勿論だが、空地の廣い所に出たものを残し、伐竹しやうとする附近に出たものを立て、之れを親竹にすることを忘れてはならない。然し中々思つた所にタケノコが生へなかつたり、偶々出たとしても、親竹としては全然其價値が無かつたりすることがある、杓子定規にこんなつまらないタケノコ迄も残して、親竹とするのは禁物である。そんな場合には少しく其配置は好くないにしても、立派なたけのこを親竹とすることが必要である。

出生届

一休和尚の、門松は冥途の旅の一里塚、目出度もあり目出度もなし、と正月果たして悲しむべきか、喜ぶべきか、そんなことは問題の外とするも、一つ正月を迎ふれば一つ歳を加へ、二つ正月を送れば二つ歳を重ね……ることは、眞に争はれない

事實ではなからうか。

竹にしても亦そうでなければならぬ、此理屈には一點の疑もない譯であるが、さて青年の頃までは能く覺えてゐるが、それを通り越して、壯年——老年の域にも達すると、立てよ歩めよと大事に育て上げた子供の年齢は愚か、御本尊の年齢までも忘れて、満足に答へ得へない滑稽を演ずることが珍らしくない。性無頓着な私なども時々こんな失態をやる場合がある。たとへ忘れたとしても人間に生れ來た幸福には、チャンと役場へ駆けつけると戸籍と云ふものがある。それを見さへすれば直に判るのであるが、竹の年齢ときては中々そんな調法なものがない、そんな七面倒なことは出来な

いから——。

一年生位の竹であれば、誰の目にもそう間違ひのあらう筈はないが、それが二年生の竹となり、三年生——四年生の竹ともなると、容易に見分がつかなくなる。立竹数が少いから日光によく當り、どれもこれも竹幹の色が赤くなるから——。そこで是



非實行せねばならぬ問題は、役場へ出生届をする代りに、発生した年か又は之に相當する干支を、発生した竹幹に記入することである。丁度届には期限があるやうに、生へた歳の八九月頃に墨で記入すれば宜しい。そうして置くと七年や八年は消えない消えないから一目瞭然に、竹の年齢が判り、こゝに始めて伐竹年齢と云ふ名刀が活用出来る譯だ、そうでないと時としては、卵の生み盛りの鶏を殺すやうなことがある。

16 梢止

憎うては叩かぬ

叩かれて頭を上ぐる雪の竹と、雪が降り積むで曲つた竹も、叩いてやればこそ、その雪が落、又元の通りに立ち上つて折れない。憎うては叩かぬ杖ぞ雪の竹と、愛すればこそ叩くのであり、可愛い子には旅をさせるのである。その事柄は違つてゐるが、

之れとその心持に於いては能く似てゐるのが、親竹の梢を切斷する、俗に云ふ梢止め——心止めと云ふのが則ち之である。孟宗畑の様に十二分の肥料を施して栽培すると勢ひ竹は柔軟に育つて来る、金満家の氣儘息子のやうに——。それで何れかと云へば虚弱であり、なほその上に枝葉が馬鹿に繁るから、その儘に放任して置くと、雪が積れば折れ、風が吹けば倒れて、其害を蒙ることが夥しい、殊に立竹数が少いだけに一層其害が甚だしい、お互ひの竹で相寄り相援けると云ふ譯にゆかぬから——。斯様な被害を防止するために行ふ仕事は、則ちこゝに云ふ梢留と云ふことである。

梢留の目的は獨り風雪の除害法には止まらないで、孟宗畑栽培の秘訣とも云ふべきタケノコを早く発生させる効果がある、親竹の丈が低くから従つて、地上に寫る影の面積が少い、少いから春季温暖の候ともなれば、土地の暖まる事が早く——大きい其結果タケノコが早く出て高く賣れる。尙作物の摘心によつて、摘心せられた爲めに頑丈になる計りでなく、根の蔓延が一層旺盛になるやうに、孟宗竹も其の梢を切る

ことによつて、其の鞭根の繁殖が旺盛になるものだと、萬更理屈がつかぬと云ふこともなからう。一步を譲つて此効果は全然認めないとしても、前述のやうな効果があり更に風當りが少いために、竹幹の動搖が僅少だから、鞭根の伸長に都合のよいことは申すまでもない。

### 抗議のお蔭

水田に接続した傾斜地に孟宗竹林を仕立て主として筍の採收をやつてゐた人があつた。所が水田の持主から竹林があると、日蔭が出来其の爲めに稲、麥の生長が悪いから、竹林をやして貰ひたいと強硬な抗議を申込まれた。かう抗議を申込まれて見ると、法律上の問題は二段とするも、吾々社會人類の道徳上から見ても、誠に申し譯もないことであると考へた、稲麥の生育の悪い状況を見せつけられては、よし伐竹しやうと決心をして鋸を手に握つた、手には握つたものゝ、連年反當り百圓に近いタケノ

コを収めてゐる、此の金櫃をなくすることは惜しいものであると。そろ／＼慾氣が角を出しかけて折角の勇ましい決心も鈍つて來た、冥想した彼は其の時ふと心に浮んだことがある。之なる哉——之なる哉と手をうつつて微笑した。それは先進地における孟宗畑の梢止のことであつた、特別の智慧を絞り出した彼は、早速立竹敷を薄めて仕舞ひ若い竹の梢を切斷した。それから出て來るタケノコの親竹として残すものに梢止をやつた。

斯様な荒治療を孟宗竹林に施した爲に、此の態を見た水田の持主は何の抗議も繰返さず、寧ろ感謝してゐるやうにさへ見受るに至つた。彼は此道徳的の罪を許されたのを只管喜んだ。——其の喜びよりも更に大きな喜びを、天は彼に授けたのである。それは立竹敷が少くなつた、親竹の梢が切られたために、筍の出る時期が早まつた、早いために馬鹿に値段が高く賣れ、却つて従来より多くの收入を得た事である。抗議のお蔭で利益の殖えたのは、此仕事計りだつと私に物語つた人があつた。一寸参考ま

でに傳へて置かう。

### 角をためて牛を殺す

親竹の梢を切る時期と云へば、云ふ迄もなく未だ竹にならない内である。一人前の竹になつてから切るのは、切斷するのにも骨の折れることは勿論だが、既に骨格を形成してゐる以上、切り棄てる梢部の部分にまで、養分を與へたのであるから、所謂竹の貴重養分の徒費であつて、重ね重ねの損失だと云はねばならぬ。のみならず竹の生理上から論じて、害こそあれ何の利益も伴はない。殊に二三年の星霜を経過した竹に、斯んなことをするものなら、見る見る内に其元氣は衰へ、葉は枯色に、筍の發生は頓に減少するものである。例へば角をためて牛を殺すやうに——。醫者の能く云ふ、子供の骨折は直接けるが、老人のものは中々接げ難いと、斯う云ふ點から考へても一人間の骨格を形づくり、身體が固まつてから梢止するのは、極めて好くないこと

である。

筍の幼小な時分に梢止をやると、往々にして之れが枯死することがあり、幸ひ枯死を免れたとしても、適當に竹枝をのこし得ない爲に、よい時期だとは無論云ひ得ない。少し遅れてタケノコが四五尺に伸びた時代でも尙駄目であり、八九尺に達した時でも尙早い——三四間の長さになつた時分であれば、或は適當な梢止の時期かも知れぬ、若くば早いかそれとも時期を逸したかも知れない。——だからタケノコの高さによつて、梢止の時期を云ひ現はすことは困難である、嘘であつて天寶錢と同様通用せない。それは立竹の密度によつても、又其の太さによつても、自ら枝のつく點が違ふから——。

タケノコが成長してズン／＼伸びて行くと、元の方から自然に皮が脱げて來る、其の内に竹枝が見へて來る、竹枝の一乃至三段展いた時分が梢止めの適期である。

身體髮膚敢不毀傷是孝之始也

タケノコが伸長して下枝一つ二つ見えた時分であれば、其の先端は未だ柔かだから手で之れを動かしてさへ容易に梢は折れる。唯だ慢然と其の梢を折ると云ふのであれば、此の方法で充分だかも知れぬ。然し竹枝の段を十二内外残すを必要とするが故にどうも此の方法では思ふやうにゆかない。若し假に一步を譲つて巧に思ふ所から折れたとしても、竹幹を強く動揺することは、延いて根部に悪影響を及ぼすことになるので、其の技術には感心の外はないが、其の方法に至つては全然賞揚するだけの勇氣がない、それかと云つて、之れに上つて切ることも、梯子を差してつむことも共に困難であり、又不可能なことだと云はねばならぬ。

誰にでも容易に行へる方法であつて、併も最も簡便な方法は、現今各地で行はれてゐる鎌竿切斷法である。此方法は極めて鋭利な鎌を竹竿の先端に結つけ、之れを使つ

て切るのである。切る前に何處を切るかを決定せねばならぬので、それは下枝から上へ竹枝の出でゐる段數と、其の上は竹皮の卷見合によつて、節部が容易に判るものだから、夫れを數へて、丁度十二位になつた所の上部と定むればよい。今數へた節からは必ず枝が出で、結局枝數が十二段になるから——。その節の上部二三寸所に兼ねて用意した鎌の刃を當て、竹竿を斜に引けば容易にその梢部は切斷し得るものである。此場合いつ迄もぼかんと上を向ひてゐると、梢がすらすと落ちて來て、大事な顔面に思はぬ負傷をすることがある。身體髮膚敢て毀傷せざるは之孝の始め也と、古文孝經に出てゐる通り、痛い目をして不孝になつては引あはぬ話だから、竹竿をひくと同時に、身を横に寄せる丈の注意が肝要である。

瓜の蔓には茄子はならぬ

宮崎縣の孟宗竹と云へば既に定評のある通りに、其の太いことに於ては實に天下第一

品でさる。どこで開かれた共進會——博覽會でも定まつたやうに、最高の褒賞を授けられてゐる。瓜の蔓には茄子はならぬと、周圍一尺七八寸の親竹から生れた、一本の目方が一貫目以上の大きな筍を、宮崎縣から門司に出した人がある。そして其人は斯様に思つた。定めて門司市場では珍品としてもてはやされ、逸品として天下に名聲を博することであらうと。所がそれは全然裏切られ、珍品逸品の騒ぎ所ではなく、一向買手もなく遂に腐らせて仕舞つたと云ふ話を聞いた事があつた。其原因は勿論單にたけのこが大き過ぎたと云ふ計りではなからう、栽培法が拙くて品質の劣つてゐた點もあらう、輸送に割合に手間取つて、採收後日數を多く經過したと云ふこともあらうが……。其のたけのこの飛離れて大き過ぎた點も亦確に、賣れ行きの悪かつた一つの原因であらう。少くとも萬人向きのたけのこでなかつたと云ふことだけは事實である料理屋大家族の所は別問題として、普通の家庭では、一回の副食に充分である位の大さのたけのこを需めるものであつて、一本のたけのこで二回も三回もでなければ、

使ひ切れないやうな大きなたけのこは買はないものであるから——。

たけのこを商品として栽培する上においては、矢張り其の大きさの點においても亦需要の廣い程度のものでなければならぬ。

小さい親に小さい子供が出来るやうに、親竹の梢を切ると、それから生れるタケノコは、梢を切らないものに較べて、小さくなることは事實である。小さくはなるが都市の家庭向としては、丁度適當な程度のものであつて、需用の廣いものである。

心臓や肺臓のやうに

竹の葉は呼吸——同化の作用を營む重要機關であつて、人間で云へば恰も心臓や肺臓のやうな働きをするものである。すると梢を切斷して、竹の葉を減らすと云ふことは、生理上から見て誠に宜しからぬことである。所が竹枝十二段内外を残すものとすれば、枝も長くのび葉も極めて密生するのであつて、其葉數においては梢切りせない

竹に較べて、多くとも決して少くはない。と云つて二三段の竹枝のみを残して、其梢を切斷するのは、竹の葉を少くして、生理上悪い計りでなく經濟上から見ても亦不得策である。

或る實驗家の説によると、梢切りの程度によつて、斯う云ふ現象を呈すると云つてゐる。例へば親竹の梢を止めて、一方は枝段の數を十段にし、他は二十段の枝數を残したと假定する。すると十段の方は、二十段の方に比較して、タケノコの出る時期が早い、タケノコが小さい、タケノコの數が多いが全收量は少い。だから二十段竹枝を残し方は、十段のものに較べて、タケノコの出方が遅れる、タケノコは大きいが其の數は少い。然し全體の目方は大きい。して見ると竹枝の數を少くすると、たけのこの收量が減るのであるから、始めから終りまで一貫目の値段に違いが無いものとするれば不利益な業のやうであるが、たけのこの早生は馬鹿に値段高い——。高い早生たけのこを多く出すと、遅れて多量に出すよりも、往々にして却つて多くの収入を見ること

がある。だから早いたけのこの頗る高い所などでは、竹枝の數を少くするのが得策であり、左様でない所では、可なり多くの竹枝をのこすのが利益であらう。

17 保護

雪見の酒

さら／＼と竹の音

冬風ふいて竹がなる

大きな竹はゆらゆら

小さな竹はさあさら

とは或る小學校の生徒が作った童謡である。

孟宗畑の親竹では梢が止められてゐるから、風のために竹幹の揺れることは少くない。ごく稀には暴風のために竹が傾いたり、若くは倒れたりする場合がある。倒れた

竹は伐採するより外に途もないが、傾いたものは甚たしいもの、外、其の儘に放任して置くのがよからう、風害を蒙ることの多いのは、何と云つても母竹植付け當時に生へた竹である、親竹の数が少なくて風當りが烈しいから——。風のために竹は穴を掘つて傾いてゐる、そして鞭根と竹の附着點は、傷つけられて、葉色は緑色を失つて枯色を呈して来る、ひどいになると竹は倒れてくる。だから母竹植付け後三四年間に出た竹、又は鞭根誘引後一二年目に生へた親竹は、八段内外の竹枝を残して、其梢を切斷することが取り分け必要である。

雪と云ふ物が降るぞよ今年竹。

とは梅史と云ふ人の讀む俳句は、若竹や雪の重みは未だ知らず、と乙由氏の俳句のやうな今年竹に、甘く警告を與へた如くに、降り積る雪によつて、庭の雪一重につもる若竹もやがて二重に腰やまがらむと、其歌をつくり、竹の苦しむものは何と云つても積雪である。獨り竹自身が苦しむと云ふ計りではなくて、柳なら案じもせねど

籾の内どうぞ折れずに吳竹の雪と、竹林所有者の頭をも亦悩ますものである。所が梢の止まつた孟宗竹では、雪の爲に折れたり曲つたりする心配はない。竹に積る雪——詩的な景色を肴として、盃を傾けることの出来るのは、何と云つても孟宗畑經營者の功德である。

子 宮 病

植付け後一人前の孟宗畑になつて來ると、夏期の炎熱に對しても、そう被害を受くだけに弱くはない。ただ前年の夏期に於て雨量が少く、炎大が打ち續いた場合、砂質地の孟宗畑では其の收量が減する位なものである。——が母竹を植付け後數年間は、炎熱によつて母竹——親竹が衰弱する事がある。だから此時期には勉めて、根元に刈草を與へ、藁を敷くなどして土壤に適當な濕氣を保持させることが肝要である。過ぎたるは尙及ばざるが如しとか、土中の濕氣も餘りに多きに過ては、筍の發生

が少くなり、鞭根の繁殖は鈍つて来る。更に其度を加へると、親竹の葉が枯色に變じて落つることになり、鞭根は伸長を停止するのみでなく、腐朽を來すものであつて、遂には全然筍の發生を見ぬことになる。斯様な過濕地では、溫熱を吸收することが少いために、俗に冷地などと唱へられてゐる。冷地なるが故に、恰も婦人が冷て子宮病を起し、神から授かるべき子實を擧げ得ないのと同様に、孟宗竹の鞭根も遂には子宮病に罹り、筍の發生を見得ないので、其儘に放任することは、所有者の頗る不利なことである。だから平坦地——谷間などの孟宗畑では、絶えず注意を拂つて、若しも濕氣が多過ぎる場合には、其處に適當な排水溝を設けて此の害を除かなければならぬ。

散財すきの道樂息子

俺の孟宗竹に實がなつた、とは能く當業者の口からさかさされる言葉である。斯う氣

をつけてゐる當業者から、異口同音に叫ばれるやうに、孟宗竹を見ると恰も實が結んでゐるやうにある。葉の元が膨れて靱のやうに——。然し之は決して開花結實したものではない。若しも彼の淡竹、黒竹、布袋竹等のやうに、假に開花結實したものとすれば、其の竹は遂に落葉し枯死するが普通であるが、孟宗竹と來ては一向そんな傾向もなく、四年も五年も生存するのではないか。今其の靱のやうなものを三月頃に採つて、中央から二つに割つて見ると、其の中から小さな蜂が現はれて、這ひ廻るものである。

此害虫は一種の孟宗虫瘿蜂であつて、俗に孟宗玉蜂と云はれてゐる位に、其の被害は孟宗竹に多いものである。此成虫は四月頃に、靱のやうに膨れた内から、丸い穴を穿つて空中に出で、交尾した後はあたらしい葉の元、言葉を代へて云ふと葉鞘の部に一粒づゝ産卵するものである。卵は孵化して蛆のやうな幼虫となつて、竹の養分を奪ひ採つて成長し、成虫となつて越冬するやうである。だから竹の身から云へば、孟宗



玉蜂は居候とも云へやう、散財すきの道樂息子とも云へるであらう。童謡の積りで書いて見ると

——孟宗玉蜂—— 孟宗竹の玉蜂さん、あなたはよつほど呑氣者、竹のお宿に泊りこみ、朝から晩まで寝轉むで、竹の作つた御馳走を、遠慮もせずに食つてゐる。之れを唯だ單に實がなつた位に見て、其の儘に放任するが如きは、孟宗畑に對して頗る不人情である。又收量がへるから自分の懐勘定から云つても損である。だから竹に寄生してゐる時代に、之れを摘とつて焼殺するか、若しくは新竹には成虫の産卵時代に、まだ葉が開いてゐないために此の害虫が寄生してゐない、それで肥料を多く施し新竹を多く立てて、翌年の二三月頃に被害竹全部を伐採し、寄生虫を焼殺するの手段を探るのがよい。

### 猫に小判

私が福岡縣に奉職して居た時分のことである。竹林指導のために門司市附近へ出張した。其の時孟宗畑を經營して居る或人が、斯う云ふことを話した。私は孟宗タケノコの出る前に、小學校へ出てゐる生徒數十名を呼んで、孟宗畑を踏み堅めさせることにしてゐるが、それ以來極めて品質のよいタケノコが生へると。それが可否曲直は別として、若しも土壤を堅めることがよいものとすれば、孟宗畑に人の踏入ることは敢て問題すべきではないが、然し多くの場合漫りに他人を孟宗畑に侵入させることは他に弊害が伴ふものであるから、そう褒めたことでもなからう。殊にタケノコの發生時期には斷じて不可である、梨下の冠瓜田の靴さては猫に小判式の人間計りではないから——。

人間や獸類の侵入を防止するために、彼の竹林のやうに生垣を造つたり、若しくは枝條を以て丈高い垣根を構へるなどは、日光の射入を遮ることになるから宜しくない。先進地の孟宗畑を見ても、一向垣根などを造つてゐるものがない。唯だ周圍に溝を設

けて、境界を判別させてある位なものである。若し垣を必要としても、杭を打ち之に横に三四本の竹を縛りつくるか、三四線の有棘鐵線を張り込む位のものがよからう。筍は概ね地表に其の尖端を露出した時分に採收したのもだから、之が不良漢に盗まれることなどは少い、が時として親竹に残すたけのこを取られたり、傷つけられたりする場合がある。之が防禦法としては、タケノコの周圍に藁を巻き、其の藁に人糞を塗つて置くと大層効目がある。現に各地で此方法を實施して、頗る良好な成績を擧げてゐる。

18 採 筍

早婚早生の兒

寒中に筍を掘つて親を喜ばせた二十四孝ではないが、京都附近でさへ俗に、見掘筍と云つて、秋の十一月から十二月の中旬頃迄に、たけのこを採取して市場へ出し

てゐる。時分が時分であるから、一貫目の價格が十圓も十五圓もするものである。都人士が頗る珍重するものだから——其方法は土置の前に行ふものであつて、先づ敷草を一坪位宛巻寄せて、地上にある龜裂がたけのこの發生に依つて、出來たものとすれば之れを掘りとり、掘つた跡は又元のやうに埋めて、そして敷草を敷き、順次畑全部に及ぼすものである。此のたけのこは普通上層の鞭根から生へたものであつて、大抵周圍四五寸——長さ五六寸位の小さなタケノコで、唯だ珍らしいと云ふのに過ない。其の品質から云へば決して優良なりとは云へない、早婚早生の兒が體力智力共に劣つてゐるものが多いやうに——。此のタケノコは採收せないので放任して置くと、あまりに太つたり、品質が向上するものではない。假に太つて行き——品質が優れてくるとしても、値段が下つて來るから、寧ろこの時分に採收して處分するのが利益である。九州地方でも十一月から十二月頃に亘つて、敷草も土置もせない孟宗竹林へ、タケノコの採收を専門としてゐる商人が廻つて來て、自ら之れを掘り取つてゐる。その方

法は地上に現はれてゐる鞭根の具合を見て、所々に金棒を突き込み、タケノコの存否を調べて採收し、之を大都市へ送つて居る。相当高價に買ひ取つては居るが、たけのこの掘取が商人委せであるから、鞭根を傷つくることが少くない。だから嚴重に監視して行はしむるか、又は所有者自身で採收するのなれば、時として思はぬ損失を招くことがある。東京目黒地方でも此時分に一方から土を掘起こして、たけのこを掘取り之を俗にモグラと云つてゐる。

### 貧すりや鈍する

約四ヶ月間の長夢をむさぼつて居たたけのこも、一朝春風のおとづれるに逢へば、目を覺ましてポツ／＼と、地面を破つて頭を突き出すもので、此時期は普通三月のころである。されば此時分に孟宗畑の内に入つて、土地に出来て居る龜裂を見、念の爲めに竹箆を押し込めて、たけのこであるか否かを確かめるのである。と云ふのは龜裂の内

にも、蚯蚓、土龍、雜草、日光……等によつて出来たものが多いから——。然し朝でもあるとタケノコのために出来た龜裂は、其の部分の土が濕つて居る。のみならず成長の盛んなタケノコによつて現はれた龜裂は、他のものによつて出来たものよりも、自ら異つた點がある。だから少しく熟練して來ると、之れが識別はそう六箇敷いものではない。斯様にしてタケノコが見當れば、其の傍に竹枝又は竹串を立て、翌日になつて採收するのが順序である。

四月中旬頃ともなると氣温は頗る暖かくなるから、タケノコの生長も亦従つて早い。それで此頃からは、竹箆でタケノコの存否を調べたり、竹枝又は竹串などを立て、之を標識するなどの必要はない。唯だタケノコの穂先が僅かに地上に見へたものを掘取ればよいのである。五月中旬頃になると概ねたけのこの發生は停止するものである。

たけのこ栽培の幼稚な所など、たけのこが地上に突き出て、皮は黒く根部は硬化し

たものを採收するやうである。これは其の品質が悪變した計りでなく、掘取の適季を逸して必ずや數日間掘取が遅れてゐる。其遅れた丈け——目方が殖へたよりも、遙に一貫目當りの値段が下がつてゐるから損である。そしてこのたけのこを掘らないたけに、次ぎのたけのこの生長が遅れると云ふ不利益が伴ふ、恰も貧すりや鈍すると云ふ調子に——。

弘法は筆を選ばず

タケノコの採收はどんな器具によるのが便利だらうか、次に起るべき問題は、當然之れでなければならぬ。所が弘法は筆を選ばずと云ふことがある。而し此諺は弘法にして初めて當てはまるのであつて、凡人にあつてはそうではなからう。試みに農具に就いて見ても、不完全なものを使つた場合と、完全なものを使つた場合とを較べて見ると、そこにどれだけ功程の上に——仕事の上に、相違を來すべきかは、こゝに

詳に云ふだけが野暮であらう。それは日に／＼新に、精巧な農具が現はれて來るのが、何よりも雄辯に此狀況を物語つてゐるのではなからうか。

タケノコ掘りとして廣く用ひられてゐるものは、土地の掘起こしに使ふ唐鍬である。無論それに大小の差はあるが——。京都附近では主として、タケノコ掘り取鍬と云ふ恰も鶴嘴のやうな器具、即ち鐵部の長さ三尺、柄の長さ二尺五寸の鍬を使つてゐる。東京目黒附近ではヘラと云つて、柄の長さが三尺四寸で其の先端に、幅五六寸のシヨ一ベル形の鐵部を附着したのものによつて行つてゐる。鞭根の錯雜せる所では、鞭根とタケノコの附着部を切り取るために、長さ六尺内外のノミを用ふるものである。

以上述べ來つた器具に就ては、土壤の種類並に栽培の粗精によつて、一利一害の伴ふのは當然である。例へば東京目黒附近の如き膨軟な土壤では、ヘラ、ノミに依つて笥の採取をやるのが、便利だらうが、京都附近の如き粘土では、寧ろ不適當であつて京都市笥掘取鍬が便利であらう。タケノコ掘取鍬が便利だと云つても、放任して手

入をせぬ孟宗畑では、之れが使用は頗る困難であつて、従来の唐鋤によるのに越た事はなからう。

壘と女房の要領て

亂雑に稲苗を植え付けた水田では、折角出来てゐる手間はぶける除草器も、甘く使ふことが出来ない。使へたとしてもそれだけの價値を發揚することは困難である。之と同じ理窟で、放任して顧みられなかつた孟宗畑では、鞭根も損せない——仕事にも便利な、そして掘り取の早い器具も、丁度猫に小判の姿で、使用することが出来ないものである。——年々人夫賃の高まる一方である時代に於いて、勞力の省ける便利な器具の使用が出来ないやうでは、何と云つても恨事の極みであるから、此の點からのみ考へても、亦以上説き來つた所の栽培法は利益である。筍の掘取に便利だから——。

どうも先祖代々傳はつて來た唐鋤は、萬屋向きには至極調法には出来てゐるが、たけのこ掘専門の立場から見ると、京都式——目黒式の器具に較べて、尙一步を譲るであらう。掘り取る量からも、困難な點からも、たけのこや鞭根を傷つける所から見ても——。だから私は何も京都式たけのこ掘り取鋤の提灯を持つと云ふ譯ではないが、京都式の栽培が出来るところでは此の栽培法によつてそして、此器具を使用せられむことを望むのである。日進月歩の今日であるからどんな便利な器具が案出せられるかも知れない。その時には一寸でも躊躇すべきことはいらない、直に採つて使用せられる方が賢いと云ふことをつけ加へて置かう。此の筆法から云つても、舊式な不利益な器具は一日も早く棄て、新式な便利な器具に代へて貰ひたい、壘と女房の要領で——。

手を握つて病名を判定

概ねたけのこは曲つて居る。そして其の曲り方は、穂先のむいてゐる方へ——。た

けのこが鞭根に附着してゐる點は、すなはち此穂先の曲つてゐる方の側である。然し稀には例外の場合もあるが――。斯様に唯たけのこの穂先さへ見れば、之が曲り具合も、鞭根の附着點も略推定することが出来るものである。醫者が手を握つて病名を判定するやうに――。従つて掘取にも亦便利な譯で、先進地では此の状況を巧く仕事の上に応用してゐる。

今京都附近の状況を見るに、穂先のむいてゐる側を腹若くは前と云ひ、其の反対の側を背若くは後と云つてゐる。たけのこの掘取鋤を以てたけのこの背、若くは後と思ふ所の土を少しくすかし、次に兩側の土をすかし、終りにタケノコの腹則ち前の方向から掘取鋤を挿入して、鞭根とタケノコの附着部を判断し、始めて力を加へてタケノコの基部を切断して、徐々に之を掘り上げるものである。東京目黒邊ではタケノコの穂の曲つてゐる側の土をヘラで掘り上げ、之によつて鞭根に附着せる部分を切り取るのである。鞭根の錯雜してゐる場合には、先づヘラにて掘り得る部分の土を除き、更

にノミにて其の附着部を突いて掘り取るのである。従來の唐鋤によつてタケノコを掘り取るとしても、又先の幅一寸位の能く切れる、柄の長さ三尺内外のノミを用ふることは、作業に便利な計りでなく鞭根をつけないと云ふ利益がある。

タケノコの掘取後は其の穴を埋めることを忘れてはならない。此の穴を埋むる場合に、此内に肥料を施すと大層効目が大きいものである。タケノコの掘取に當つては、鞭根を損せないことは勿論、タケノコに傷を付つけたり、タケノコの皮をはいだりせないやうに注意せなければならぬ。

### 傘屋の小僧

孟宗畑、なれない仕事で勝手が知れぬ、

(夫)「大層筍が傷ついてゐるだないか。」

(妻)「だつて一寸とも甘く掘れないんですもの」

しからず教へて頂戴な、教科書持つ手に、ヨツコリヤ、唐鍬をヨ、針取る其手に鎌握る、チヨイ。チヨイ。

と云ふ具合に各地にありふれた唐鍬などを使つて、併も未熟なものがタケノコを掘取ると、一日中たらたらと汗を流して、一生懸命にやつたとしてもなほ且つ、二十貫目位を收穫するのが關の山であらう。それには大事な鞭根や、折角生へて来たタケノコを切つたり、又は傷つけたりしつゝ、先進地京都附近などでは、都合のよい道具を使つて居るために、一人一日八十貫目内外のタケノコを掘取るものである。能く熟練した者では百五十貫目も收穫するものである。それが孟宗畑も害はず筍を傷つけないで――。一日の採收量二十貫と八十貫、其差の餘りに大きいのに驚かざるを得ない骨折つてしかられる傘屋の小僧、之れに似た筍の掘方では、誠につまらない、一つ此處にも注意して貰ひたいものである。

掘採つたタケノコは先づ一定の場所に集めて、根元を鎌で巧く整理し、之れを品質のよいものと、そして悪いものにとに選り分けねばならぬ。品質の良いタケノコと云ふのは、肥大なものであつて、其の皮が黄褐色を呈し、根元の切り口は純白色なものである。こんなタケノコはきつと其の質の柔かであり、そして味は至つて良好なものである。所が細長いたけのこであつて、其の皮の色が紫黒色であり、切口が純白色でなくて黄色がかつたものは、必ず硬くして味が悪いものである。もう一度繰返し置かう、筍の良否を識別するのは、其の肥瘦と皮の色と切口の色澤とによつてやるものである。

掘取つたたけのこはなるべく日光に當らないやうに注意して、速かに市場へ搬出せなければならぬ、そうせないとたけのこの品質が悪變して、買ふ人が喜ばなくなるから――。

廢物利用

孟宗タケノコは採收後直に調理して、食膳に上するのが普通ではあるが、時として罐詰に造つたり、稀には干タケノコに造ることがある、干タケノコと云ふのは、大きなものはたてに四つに割り、小さなものは二つに割つて、一度熱湯でゆで取出して、充分に日光に乾かすのである。時としてはタケノコを全部一二分の厚さに刻んで、日光に能く乾かして貯藏する場合もある。食用に供する時には、何れも一旦水に浸して膨らしてから、後調理するのが常である。僅かに自家用として貯藏するのには、干タケノコによるのもよからうが、販賣用としては罐詰によるのが適當であり、又時勢の進歩は之れが増加を促して止まない、内地の需用から見ても、又海外輸出の盛んな點から考へても――。

萬更廢物利用と云ふ譯でもないが、罐詰筍としては屑物、即ち小さなものを使ふ罐詰に詰めると小さなタケノコの方が喜ばれる。此外價格の低廉な時代のタケノコが用ひられる。今此要領を示すと次の如くである。

- イ、タケノコの根元を切り、土及其他の塵芥を取除く。
- ロ、皮付の儘タケノコを釜に入れ、約二時間水と共に煮沸せしむ。
- ハ、冷水中に移して皮を剥ぐ。
- ニ、新陳代謝する水の中に約一晝夜間浸して、純白色となつた時に之れを取出だす
- ホ、タケノコを罐に入れ水を填充して蓋をする。
- ヘ、之れを釜に入れ、冷水から徐々に熱して、約二時間煮沸す。
- ト、取出して罐に小さな穴を穿ち空気を排除し、三四十分後にハンダーにて此の穴を塞ぐ。

チ、再び釜にて煮沸殺菌を行ふ。

罐詰にさへなればたけのこ百匁の價が一圓内外となるものである。

たけのこの頭に石をのせ



阿部東京府技師の知らせによると、大正十四年に於ける東京目黒附近の相場は、たけのこ一貫目について

▲六圓——高い時▲七十錢——出盛り時

東京神田市場ではたけのこ一貫目が

▲八九圓——高い時▲一圓五十錢——出盛り時

と云ふ價格である。

京都府乙訓郡橋本技手の通信によると、大正十四年の京都附近に於ける、タケノコ一貫目の市場價格は次の如くである。

▲一二月、十圓——十五圓▲三月、五圓——七圓▲四月初旬、二圓——三圓▲同

中旬、八十錢——一圓▲同下旬、六十錢——七十錢▲五月上旬、六七十錢▲同中

旬、八十錢——一圓▲同下旬、一圓五十錢——二圓▲六月初旬二圓内外

北九州などでも略京都の夫れに近い相場を現して居たやうである。前表のやうにタ

ケノコの値段の高いのは、何と云つても早いものである。タケノコの早作りを勧めて来た理由は即ちこゝである。出盛りの時が一番安いのであつて、お仕舞になると、又値段が上つてくるものである。それから詳に云へば、節句とか又は何か賑ふ事があると目に見えて需用が殖え、従つて價格も亦向上するものである。で、出かゝつたタケノコの頭に石をのせ、又はタケノコの根部を約半切断して、其のタケノコの伸長を鈍らせ、そして其の高い値段の日に掘り取つて、金を多く儲ける智者がある。極秘密で業者各位に之れを教へて置かう。需用者へは口外すること嚴禁々々

萬年判任官

親のすねをかじつて勉強した者も、月給十五圓の振出しに奉職すると、龜の甲も歳の功で辛抱さへすれば、やつと四十圓給與の判任官に進む。それからは追つ手に帆かけて二年目——三年目には、五圓上り十圓昇り十五圓増して、十人の中一人の幸運兒

は高等官に、游泳に拙い不遇者は、萬年判任官などと、あり難からぬ尊名を奉られて居る内に、切味鮮かな正宗の名刀に掛つて、首はころりと飛んで仕舞ふ。老朽か——若朽か——韓退之の所謂千里の馬か……。

年を追ふて俸給が上る様に、孟宗畑も植付け後、歳さへ経れば、桃栗三年柿八年式に、一年は一年と其の筍の生産額は殖えて行くものである。今参考のために、東京目黒附近で孟宗畑一反歩に對する、筍の生産量について、嘗て白澤博士の調査せられたものを示すと次の如くである。

- ▲植付け後二年目 三十貫目 ▲同三年目 五十貫目 ▲同四年目 百二十貫目 ▲同四年目 百二十貫目 ▲同五年目 百八十貫目 ▲同六年目 二百五十貫目 ▲同七年目 四百五十貫目 ▲同八年目 五百三十貫目 ▲九年目 五百五十貫目 ▲同十年目 五百八十貫目 ▲以後十年目の収量に同じ
- 赤松の辛うじて成長し得る位な土壤、換言すれば地味の悪い所に栽培して居る京都

附近でさへ、普通の孟宗畑一反歩から三四百貫目、上等の畑からは五六百貫目のたけのこを收穫してゐるのである。充分に肥培さへして作れば、一反歩の孟宗畑から、たけのこの五百貫目内外取入れることは、左程に困難な問題ではない。先づ植付け後八年目頃になれば、一反歩の孟宗畑から、五百貫目内外のたけのこが取れるものとさへ思へば、そう大した相違はなからう。

19 副産

都市の附近で花竹を

生花用の竹を仕立てるのは、孟宗畑の副業として、至極金の儲かる仕事である。然し之は都市附近でなくては、面白くないと云ふことを前以て断つて置かう。植付け後三四年間は小さなたけのこが發生するものである、こんなたけのこは掘取つたとしても、そう収入があるものではない。目方が少いから——。そんなたけのこや——其の後生

へた小さなたけのこを掘残して、花竹を作り上げるのである。

小倉市附近でやつてゐる方法は竹の周圍一寸五分から四寸位になるタケノコを残して、——下枝が二三段開いた時分に、枝段の数が九つ残るやうに、其梢を切斷する。九段共に枝の開いた時に、一二節残るやうに、全部の枝先を切り去るのである。之を二年目秋頃迄其の儘にして置くと、葉が房々と密生して、誠に立派な花竹となるものである。之を正月前に伐り取つて中間の枝二三段を去り、上下共に枝が三段着くやうに切るので、一本の竹から二本の花竹が取れる、之に水揚法として市中へ持出すと一本の花竹が五十錢内外に賣れるものである私は確か大正六年頃であつたと思ふが、小倉市からほど遠からぬ所に、植付け後四年目頃になる孟宗畑がある、それに反産りにやく二百本の花竹を仕立てあるのを見たことがある。假に今二年目のもの百本を伐採し、一本を二本に切斷し、一本平均五十錢としても、其の金額は實に百圓ではないか。

宮崎市の附近には小さな筍が生長して、二三段の枝が出た時に其梢を切り、其儘にして其の歳に生花用として賣る者がある。一本の價は三十錢以上一圓以内のやうである。立派なものが出来るのは何といつても前者である。

朱に交はれば赤くなる

小さな筍から金を儲ける方法をもう一つ紹介して置かう。——と云ふのは、風流でも雅致に富んだ竹の盆栽を作る方法である。元來竹の盆栽としては、竹幹が眞直であつて、其節間が短かく、そして株元が太く、丈が低くて、枝や葉の細小なものが珍品とせられ、逸品と稱せられて、世人から賞揚せられるものである。だから此の考へで盆栽を仕立つることが必要である。

盆栽はタケノコからも、鞭根からも、又は實生からでも造れるが、茲にはタケノコから仕立てる方法に就いてのみ述べて置かう。——春早く發生したタケノコの内で、極

小さなタケノコを見立て、之れが僅かに發育した時分に、七八節の鞭根がつくやうに掘取つて、鉢が畑に移植するのである。

此場合注意すべきことは、鞭根から土を落さないこと、植付後餘り日光に觸れしめないことである。斯くして筍が生長を始むる頃になれば、最初元皮一二枚を能く切れる小刀で、肉を傷つけぬやうに、五六線縦に皮を切つて、靜かに節の近くまで剃いでさげて置く、すると、それが自然に脱落するものである。其後毎日一枚づゝ斯様にして、竹の伸長を妨げるのである。幹が曲ると其價值が落つるから、二三本の支柱を施すことを怠つてはならない。斯うして出來上つたものを、幹の細太高低を巧く見計らつて、鉢に移植するのがよい。良いものになると一鉢の値段が數十圓に上る場合が珍らしくい。

朱に交はれば赤くなる、竹に交はれば君子となる。と此意味からしても、竹の盆栽の一鉢や二鉢を自ら仕立て、床の間に上げるなどは、詩を作り若くは戀愛文學を耽讀

するよりも、餘程氣のきいた業である。

二兎を追ふ者は一兎も得ず

孟宗畑一反歩からは年々僅に三十本内外の親竹を伐採するのであるから、之が利用に就ては左程研究するまでの必要もないやうであるが、参考までに孟宗竹の使はれる用途を記して見ると、ざつと次の如くである。

母呂骨、提灯弓、水杓、團扇骨、行李の椽竹、箕、茶入、小燈、盃洗、名刺入、杓子、匙、ホーク、瓶敷、水指、茶托、急須、柱掛、菓子盆、釜敷、串、スツボン竹、掛燈臺、文箱、建水、茶上合、天目臺、茶壺、菓子鉢、酒筒、煙草入、煙草盆、根付篋筒、扇掛、辨當箱、吸物碗、茶碗、香爐、樋、飯櫃、盆類、花筒、竹屋根、垣、浮標、コップ、竹胸、彫、塗箸、蠶泊、ポンプ竹、工業農業商業用籠、紡績荷造偶竹、……等であるが、梢の止まつた孟宗畑の親竹ときては、其の品質が極劣等であり、尚

保存期が短く、加工に困難だから、多くは割つて垣を造り、又は紡績荷造の偶竹若くは、竹は鱒網、藝者は客を浮かせ浮かして、金儲と云ふ具合に丸のまゝ漁業の浮竹として用ひられる位で、精巧な加工品などには使用せられないやうである。されば山間僻地にては、買手が無い位なものである。竹材價格の高い京都附近でさへ大正十四年の相場は、一本の價格が胸高周圍尺三寸廻りは五十錢、尺二寸廻りは四十錢、尺一寸廻りは三十三錢、尺廻りは二十五錢、九寸廻りは十七錢、八寸廻りは十二錢であつて普通の梢付け孟宗竹材に較べて、其の四分の一乃至五分の一價格である。それなら孟宗畑の親竹の梢を切斷せない方が勝つてゐると、早合點してはいけない。二兎を追ふ者は一兎も得ずと、諺にもあるから。

新陳代謝

遺憾ながら不老不死の妙薬が發明せられてゐない今日、正月は實に冥土の旅の一

里塚であつて、青年壯年の域を通り越すと、一年一年と老境に入り、身體も精神も共に衰弱して来る。衰弱した老人が若い者に其家を譲つて、樂隠居するやうに、孟宗畑の親竹も老竹は亦隠居させねばならぬ。——仕事も出来ない老人が、何時迄も出しや張つては、そこについて新舊思想の相違とでも云はうか、色々の衝突が起つて、一家の内が面白く行かないと、云ふことが萬更ないとは云へないから——。獨り老人に向つて新陳代謝を望むやうに、俗に云ふ若年寄然たる若朽の輩も、亦一家から見ても將た國家から考へても、有害無益であれば只管、之れが勇退を望まざるを得ないと同様に親竹にも亦左様の場合がある。

親竹の葉色が衰へ、葉數の減つたものは、大抵生産能力が衰へて、親竹としての價値は薄いものだから、之等は當然伐採せなければならぬ。年齢から云へば先づ六年生内外のものであらう時としては年齢の若いものにしても、こんな現象を呈する竹が出来る。出來たら、除伐することは勿論である。其外病虫害又は風雪によつて、害を蒙つ

た親竹も亦伐採せねばならぬ場合がある。斯様な老竹、不良竹、被害竹を伐採せないと、之れによつて土地に日蔭が多くなり、ために筍の發生が遅れ、尙且つ肥料分を攝取せられるものだから、重ね々々の損失と云はねばならぬ。だから伐期は施肥前を選ぶが可なりと云ふ人、又は竹材に重きを置かぬ場合には、切り株の腐朽が早いために夏期を可なりと云ふ者もある。それもよからうが、九月頃に株低く伐竹しても、決して悪いとは云へぬ。

すたり物なし

竹を伐り倒せば續いて枝を落とさねばならぬ。孟宗竹の枝は細枝が多いために、各竹種中之れにまさるものはない。だから竹箒の材料としての需用は莫大なものである。宮崎市附近の山元にては、竹一本分の竹材を四錢内外で賣買して居る。京都附近の相場は一貫目十五錢内外、東京附近では需用の枝は一本一二厘の相場である。竹枝は此

外垣根、袖垣等に使用せられ尙、長さ五尺以上のものは、東京灣の海苔ヒビに使はれる。ヒビとは海苔を寄生させるために、海中に植置くものの名稱である。昔は檜、樺栗などの枝條が専ら使用せられてゐたのだが、近來では一變して樹枝に較べて保存期が長く、海苔の採收に便利な竹枝に代つたものである。大正十四年の相場は京都附近に於て、枝の長さ五尺以上のもの一本につき平均一錢、東京では上物一本三錢であつた、序に云つて置くが海の深い部分にさす孟宗竹の梢にして、長さ十八尺のものは東京着一本につき三四十錢の相場であつて、平均一本三十五錢内外である。梢止めをした孟宗畑の親竹には、無論梢のあらう筈はないが、枝の長さは梢止めせないものに較べて確かに長い、今神田京都府竹林主任の調査に依ると、孟宗竹の親竹では、普通親竹十二段の枝がついてゐるものとして、下方から三段は短いから駄目、四段目――五段目のもので四尺以上、六段目のものが五尺、七段目から九段目までのものが六尺以上、十段と十一段目のものが五尺、十二段目の枝が四尺であると。――だから東京

迄送り届くれば、一本の親竹から十二錢内外の枝代金が取れる勘定である。  
赤いたすきの花嫁つれて、藪の除草に皮拾ひと、竹の皮も亦拾つてさへ置けば、一貫目が三四十錢には賣れるので、孟宗畑からは何一つとして、すたり物が無い譯である。

肥たタケノコあちこちに

▽春は嬉しや二人揃ふてタケノコ掘よ、秋にならした地面から、肥たタケノコあちこちに、一寸氣をつけ、踏まぬように、エーゼ、手入の効能はてき面に現はれて、あゝ此處にも其處にもタケノコの頭が、踏むなよ氣をつけて——。此具合なら一反歩から五百貫の筍は請合つて出る、して之を金に見積つて見ると、四百圓は大丈夫だらうと妻君の顔を見てにつこり、石四十圓の米にすると十石だもの——。  
△夏は嬉しや二人揃ふて草取仕事、茂る緑の竹のかけ、葉すれの音も面白く、一寸削

つて竹の爲エトゼ。

孟宗畑の親竹——梢の止つた孟宗竹、其のこんもりと茂つた容姿は、何とも云へぬ雅趣に富んだもので、風致を添へることが一通りでない。その抱節君、君子、瀟洒侯青士、此君と迄稱せられてゐる竹の下で、其の蔭を踏むで仕事をする、夫婦等の自ら心もすがすがしくなることは當然である。

▽秋は嬉しや二人揃ふて竹伐り仕事、切込む音も勇ましく、枝打つ業はなめらかに、一寸研ましよ鉦の刃を、エーゼ。

一反歩の孟宗畑からは、年々三十本内外の親竹を伐採するから、一本十錢としても三圓内外の金はとれる。それから枝代も一圓内外は得られやう。竹の皮代が二三十錢と——。四五圓の副産物収入があると、諸税諸負擔位には大丈夫。

▽冬は嬉しや二人揃うて雪見の酒、タケノコ収入いやまして、積りし雪を肴とし一寸飲みましよ白酒をエーゼ。

歳の暮、妻君と差向ひに雪見の宴、孟宗畑の儲かり話に花を咲かせつゝ、積りし雪を肴として楽しげにむつまじく、まの遠慮するなさあ一杯、妾はんに酔つて仕舞つたのよ。……

20 更新

古家の修繕

人間にしても歳が寄つてくると、生産力が衰へてくる、一本の竹にしても老ひて来ると衰弱する、孟宗畑にしても亦同じ道理で、餘り、古くなると、何程保護——手入れをしても、一向思ふやうに収益が擧がらなくなる。例へば古家の修繕のやうに——。何程手を入れ金を掛けても、頓と見榮のせない古家の修繕を思ひ切つて、断然新築に着手するやうに、孟宗畑にしてもこんな場合には、更新法を断行するのが得策である。更新法と云ふのは前に述べた短冊形開墾法の要領によつて、二間幅位の带状に區劃

して、一つ飛びに其の带状の親竹を伐採し、其の跡地を深さ二尺内外に開墾して、其處に有機質肥料を充分に施し、そして鞭根を其處に誘引するのである。タケノコが生へ竹が生へることになれば、前の部分の短冊地に、此方法を繰返すのであつて、之が終れば孟宗畑の更新は済んだ譯である。

若しくは孟宗畑の内で土置の土を採収する場合、一方から深さ一二尺に低めてゆき其の低めた部分に母竹を植栽して置けば、知らず、識らずの内に更新が出来るものである。此場合には土を取つた跡地に、水が停滞せないやうに注意し、又は排水の施設を講ずることが必要である。

京都附近などでは孟宗畑が新植後、二十餘年間を経過して衰退の色を現はして来ると、その内に點々苦竹又は淡竹を植栽して、遂には苦竹林——淡竹林に更新するものがある。之は實に有利な方法である、孟宗畑は早くから金が取れる、取れぬやうになつた時分には、次代の竹林から金の取れることになるから。



身から出た鏝

今迄説いてきた所は新に、孟宗畑を仕立て、之れが保護——培養に關する方法であつた。——が現在出來てゐる孟宗畑、それがどうも思ふやうに、收穫がない收入が擧がらない、それより以上に收入が殖えるやうに、誘導して行く方法、換言すれば孟宗畑の改良法とは如何、と此質問も可なり多くの當業者から發せられる所だから、之に對して極簡單に、其の要點だけを述べて置かう。

先づ順序として一應藪醫者眼で、孟宗畑の現況を調べて見る必要がある。丁度醫者が診察してから投藥するやうに——。若しもそれが老衰より來たものとしたら、前に云つた更新法によるのが得策であり。濕氣が多過ぎるのが原因であれば、排水に勉むるのが適策であり。タケノコの發生が遅れて、收入の少ない場合には、これが發生を早

める方法を講ずるのが急務であり。タケノコの生産量が僅少な時には、其増加方法を施すのが必要である。其の他の不利な點若しくは缺けた所は、夫れ／＼有利に導き、缺點を補ふ諺が取り分け肝要である。

身から出た鏝と云ふ諺がある通りに、孟宗畑から金の儲かることが少いのは、畢竟己れが孟宗畑に對して、なさねばならぬ保護培養を怠つた因果ではなからうか。そんな孟宗畑は云ひ合せたやうに、蓬々と雜草が茂つてゐる、時としては雜木までが混じてゐる。慾深な人ときては、其の内に柿や梅などの果樹を混植してゐる、親竹が多ければたけのこも餘計に生へるくらゐに早吞込して、立竹數の多いのは止むを得ないとしても、その内に繁殖能力はとうの昔に失せた爺さんや——婆さんが交つてゐるのは、只管寒心の外はない。施肥などはてんで問題としてゐない人がある。

一寸の虫にも五分の魂

繁茂してゐる雑草は、筍の發生後に、一度株低く刈とつてから、其處を草の根の除き得る位の深さに中耕して、其の株を悉く數箇所に堆積し、秋頃に敷藁後此の上に撒布するのがよい。それから雑木は全部伐採する、親竹は一反歩に百五十本が二百本位、甘く配置に注意して老竹や不良竹を除外する。一寸云つて置くが、立竹を薄めた丈けでもたけのこの發生は中々早くなる。大正十五年一月頃の新聞だつたと思ふが、鹿兒島縣日置郡伊集院村では、寒中に長さ一尺八寸——根廻り一尺、重量五百五十匁のたけのこが出たと其の孟宗竹林は昨年五月に、五反歩に立つてゐた九百本の内から約六割、則ち五百五十本の竹を伐採して、立竹數を少くした爲めに、急に土地が暖められて、かく早くたけのこが發生したのだと、縣廳のお役人さんが調査せられた模様  
が記されてゐた。——やうに親竹を少くするとタケノコの發生が早まり、従つて單價が高いから金の多く取れることは云ふ迄もない。其の年からは反當りに三十本内外のタケノコを残して親竹に立て、其の梢を切斷して、竹幹の動搖を防ぐのと——日光の

射入を許り、一方竹幹に發生年度を記入して、伐竹に便にする必要がある。急斜地でない限り敷草と土置とをして、筍の生産増加と品質の向上とを企てるのも無論必要なことである。筍の生産増加の原動力である、肥料の施用は極めて重要な問題である、少くとも中耕の済んだ時分に、所々に穴を穿つて其處に能く効く肥料を埋込むのと、敷藁前にもう一度の施肥と、その時に反當り二十貫目位な石灰を撒布するのがよからう。防害法を講ずるのは勿論だ、一寸の虫にも五分の魂と、斯う云ふやうにせられては、虫ならぬ孟宗烟でも、その恩を報ずることは當然である。

- 一、淡竹畑——布袋竹畑——苦竹畑——大名竹畑——
- 四方竹畑

大同小異

孟宗竹の土地に對する希望が極めて少いやうに、淡竹も亦そうである。唯だ過濕地

と岩石地とさへ除けば、何れの土地にでも生育する位なものではあるが、然し理想的な所としては、排水のよい肥沃な砂礫質土壤である。——で淡竹畑としての土地の選定法は、既に述べた孟宗畑の場合と、そう大した相違があるものではない。云はば大同小異だから茲には再び之を繰返さないこととする。孟宗畑よりも淡竹畑の方は稍や土壤が浅くてもよい。そして石礫が少しぐらひは交つてゐても、土中の筍を採收するのでないから、敢て不可なりとは云へない。孟宗畑のやうに筍發生の早晚によつて、収益が大きな違いが生ぜないために、地勢に對しては左様に多く頭を悩ます迄の必要もなからう。言葉を代へて云へば、最も適當な所は之を孟宗畑に譲り、次位の所で淡竹畑を經營するのが得策であらう。

斯様な土地を見出したならば、既に開墾のしてある場合は別として、其の他の場合には雜草を除き得る程度の深さに開墾して、茲に母竹を植栽せなければならぬ。母竹は新しい竹であつて、下枝の低い、太さ三寸廻り位なものが最も適當である。——

鞭根の長さが二尺内外附着するやうに迅速丁寧に掘り取つて、下枝三四段を残して其の先端を切斷し、秋十一月頃か——春三月頃に、反當り百株即ち三坪に一本位の割合に植付け、植付けと同時に大豆粕を一株に三合位施し、後敷糞をし支柱を施さぬばならぬ。獨り母竹の植付けにかぎつたことはない、根株を移植してもよければ、隣接地に淡竹林があれば、之れから鞭根を誘引して仕立ててもよからう。

實る程頭を下ぐる稻穂哉

植付け後は毎年除草をする、孟宗畑と同様に肥料を施す、その分量はおほいのに越したことはないが、少くても孟宗畑の七八割見當が施用するのがよからう。敷草——土置は連年行ふのが理想ではあるが、夫れが出来ぬとしても、二三年目に一回位は是非實行せなければ駄目である。

親竹としては毎年反當りに、七八十本のたけのこをのこして成竹せしめ、一反歩

の立竹數を三百本内外とするのが適當である。そして充分に肥料をすると枝葉がよく繁茂し自然に傾く、丁度實る程頭を下ぐる稻穂のやうに――。

一方一坪に一本ぐらゐの親竹數であるから、風雪の害を被ることが多いために、孟宗竹の如く其の梢を切斷する必要がある、時期はたけのこが生長して下枝二三段を展いた時で、竹枝の數が二十段くらゐのころやうにすればそれでよい。として其の親竹には發生した年を記して、容易にその竹の年齢を識別し得るやうにせなければならぬ。伐竹年齢は五年生でよからう、たけのこの採收はたけのこが一尺内外に伸長した時株元から切り取ればよい。斯様にして行けば概ね次の如くたけのこの收穫があるものである。

淡竹畑一反歩たけのこ生産額調

- ▲植付後三年目――廿貫▲同四年目――四十貫▲同五年目――七十貫▲同六年目九十貫▲同七年目――百四十貫▲同八年目――百八十貫▲同九年目――二百貫▲以

後九年目に同じ

現在京都附近に於ける淡竹畑の收入は、面積一反歩に對してたけのこ二百貫、此價格百六十圓内外に、皮並に竹代四圓内外、計百六十四圓内外であつて、其の半分則ち八十圓内外の收益がある。淡竹の代りに紋竹(丹波班竹)を用ふるものは、其の竹代が高價なだけに、その利益は當然多いものである。

粹に變りて都鳥

布袋竹は所によつて五三竹、八面竹、多般竹、鶴膝竹、虎攢竹などと呼ばれてゐる情なく子を取られたる吳竹のおや寂しくものころけさかな。

と清涼殿の前庭に植えられては、布袋竹の名も床しく變つて、吳竹と稱せられてゐる。――粹に變りて都鳥と云ふ様に――。元來此の竹は性質が頑健であるために、劣等な土地にでも能く甘んじて生育するものである。けれども其のタケノコの收量の多

きを望むならば、無論肥沃な土壤でなければならぬ。

土地は一度開墾してから、秋又は春期に、若い竹の内から下枝の低い、二寸廻り内外のものを選んで之れを掘取り、面積一反歩に百株から、百五十株位な割合で植付け之れと同時に母竹一株に大豆粕の二三合位も施すのがよからう。

植付け後は年々二回位除草を行ひ、施肥量は漸次増加して、植付け後五六年目頃から反當りに、人糞尿二百貫目内外か、若くは大豆粕の四五玉位も施して行けば、植栽後六七年目頃ともなると、一人前の布袋竹畑となり面積一反歩からは、タケノコ八十貫目内外は生産するものであつて、一貫目一圓五十錢とすると、其の價格はざつと百二十圓である。タケノコの採收は一尺内外に伸長した時分に、鎌で株元から切り取ればよい。親竹としては連年百本内外のタケノコを立て、之を生長させるのである。そう大して伸長する竹でないのと、株元の太い丈夫な竹であるから、特に梢を切斷する丈けの必要もない。親竹の伐採は五年生とし、之を伐竹すれば釣竿として、相當に

需用があるものである。連年やれば之に越した事はないが少くとも三四年目毎に敷草——土入をやるのがよい。

貞婦に美人稀なり

苦竹畑の經營法については、前に述べた淡竹畑の經營と略ぼ同様であるから、其の要領に依つて栽培すれば宜しい。十年近くかゝつて一人前の苦竹畑になれば、其の收量も價格も亦淡竹畑と大差はなからう。

大名竹は九州地方に多い竹であつて、寒山竹などと呼ばれる場合がある。丁度女竹の大きいやうな竹であつて、其の太いものは、高さ二十尺周圍四寸に餘るものがある。大名竹畑を造るのには、稍土壤の肥えた適潤地を選んで開墾し、此處に秋期若くば春期に、一坪の面積に一本ぐらゐな割合に母竹を植付け、除草と施肥を行ひ、隔年毎に敷草——土置をすると、六七年目には完全に成林するものである。成林さへすれば

一反歩から五十貫目内外筍を收穫し、百圓内外の収入を見ることであらう。親竹は毎年百本内外を立て、伐期は五年生位でよい。

四方竹と云ひ四角竹と呼び、方竹と唱へ、四季竹と稱せらるゝ、即ち四方竹畑の仕立法は、大名竹畑の仕立法と大同小異であるから、之れによつて造ればよい。此竹は筍の伸長時代に、孟宗竹の要領に準じて、親竹の梢を切斷するのが適當である。植付後充分裁養に意を注ぎさへすれば、五六年にして成林し、反當りの收穫六七十貫目の筍はその六箇敷いことではなからう。

大名竹畑——四方竹畑共に將來都市附近において、必ず興るべき事業であつて、又有望な業ではなからうか。自家用として十坪内外に之れを經營するのは、趣味の上から云つても、風致上愛すべき點から見ても、實に面白いことである。貞婦に美人稀なりと云ふが、荀畑と來ては兩方を兼備してあるから——。

三、結 論

釋迦に説法

九州から東京へ上るとする。それには汽車に乗つて行くのが普通ではあるが、萬更船でも行けぬこともない。時目を惜まぬならば親譲りの健脚に鞭うつもよい。汽車のやうに飛行機が常用せられる時代もそう遠くはなからう。それと同様に、筍を作り出す事が目的であり、主眼であるたけのこの栽培法も、決して單一な方法ではなくて東京目黒式栽培法によるのを適當とする土地があり、京都式栽培法に依らねばならぬ場合もあり、中耕式栽培法でなくては不利な箇所がないとも限らない。——それぞれ適當であり、有利であるとする栽培によつて、其の目的を達し多くの利益を收めるのが得策である。

又決してたけのこ畑を仕立てるのは、母竹の植栽には限つてゐない場所によつては鞭

根の誘引を利とする場合があり、竹苗の都合によつては株植を却つて有利なりとする  
ことがあるやうに――。

以上述べてきた栽培法も、細かに云へば唯一つの道ゆきを説いてきたのに過ぎない。  
だから近道があれば無論夫れを進むのがよからう。少しは遠くとも樂な道のある場合  
身體の都合では此の道を選んでも一向差支へない。杓子定規式と云はうか、丸呑み込  
式と云はうか、機に臨み變に應じ、時に従ひ土地に適した、所謂應用の才に缺けた裁  
培法をやり、思はぬ失敗を演じてゐる人を見ることがある。斯う云ふ悲むべき状況を  
點々見せつけられてゐる私は、釋迦に説法、孔子に悟道の誹りは覺悟の上で、唯だ一  
言述べて置かう。自分の土地の狀況を一番能く知つてゐる者は、他人ではなくて實に  
自分である。其の自分が其の土地に一番能く適した方法で、タケノコを作つてこそ、  
一番能く金が儲かるのであると。

千の倉より子は賣

黒竹を植えると盲人が生れる、孟宗竹を植ると家の人が死ぬと云ふ地方がある。前  
者は竹の色が黒いから、後者は孟宗と亡葬との音が相通する所から生れた、採るに足  
らない迷信ではなからうか。それと同じ様に、孟宗竹の梢を切斷して、筍を採收す  
るのは、即ち親を止めて、子を取るものであつて、親は財産の殖へるのが止り、千の  
倉より子は寶とする子供を失ふものだと云ふ者がある。説明は誠に甘く出来てゐるが  
今日の科學を以てしては、能く會得の出来るだけに満足な解釋は困難なので、先づ迷  
信として迷り去るより致し方がない。そんな迷信から親竹の梢を切らないで、タケノ  
コの栽培をやつてる人に對しては何も語らない。

孟宗竹林と云へば云へぬこともないが、孟宗竹の半立法と云ふのがある。これはた  
けのこの採收が主眼ではあるが、孟宗畑のやうに親竹の梢を切斷しない、従つて土地

に陽光の射入することが多い、からたけのこの発生も遅れる。親竹は風雪のため被害を受けることは勿論であるけれども、山間部であつて、たけのこの需用が少い所などでは、或は利益な方法であるかも知れぬ。立派なたけのこのみを残して親竹とし、其の他のものを採收して販賣する。すると残した竹は大きいもの計りだから高く賣れる。尙稍があるからヒビ竹として金が取れる。

此方法は山間部においては利益の場合がないとも限らないが、都市附近においては全然不利益な方法だと云つて置かう。孟宗畑よりたけのこの出る時期が遅れる、其の收穫量が少いから——。

### 農村の振興

タケノコ作りの素敵に儲かることは、最初に述べた所であるから、再び又これに繰返すの必要もなからう。——それよりも、東京の目黒附近か、京都附近か、下關

附近か若くは、熱心家に依つて栽培せられてゐる、タケノコ栽培の實況を親しく踏査せらるゝなれば、其の利益なことは十二分に會得せられることであらう。云ふ迄もなくタケノコ作りは土地を選ぶことが極めて少い。云はば劣等地にでも、夫れ相當の生育を營むものであり、勞力にしても所謂農閑を利用し得ると云ふ得點があるものであつて。農家の副業として頗るあつらへ向きである。尙其の作業は容易であつて。老幼婦女子にでも出來ぬことはない。肥料にしても強ち金肥たるを要せないで、其の何を用ひても毫も悪くはない。殊に都市附近では單に勞力のみによつて人糞が得られ、之を施すことが出来る。そして出來たタケノコは年々其の需用が殖え、價格も向上して行く一方である、現に一反歩のタケノコ畑から、四五百圓の收入を擧げ、其の半額内外が収益となつてゐるやうなものは、敢て珍とするに足らない。——等と考へて來ると、たけのこの栽培は實に農家——農村の振興策であつて、誠に意義重大な事業と云はざるを得ぬ。近頃農政に農業に口を開けば、必ず農村の振興と云ふ、其の言や最も



宜し、然しそれが唯だ單に机上の空論に止どまるものだとすれば、三文の價値もないので、一株なり二株なりの竹を植、たけのこ作りをやらせた方が、どれだけ利益なにとだか判らない、論より證據福岡縣八女郡白木村では、時の村長檀保氏が副業の意味から、傾斜地に孟宗畑を極力奨励した結果、今日では其の面積百五十町歩に達し、之から生産するたけのこは四十萬貫——其の價格十萬圓に垂んとしてゐると聞く、一戸當りにすれば僅かなものかも知れないが、それでも農家の經濟を豊にすることは勿論である。

### 生徒料理のタケノコ飯

兒童に愛林思想を養成し、傍ら勞働の尊重すべき所以を自覺させ、尙理科資料を得るといふ教育的効果を收める以外に、基本財産を造り出すといふ目的の下に、到る所の小學校に於て、タケノコ畑の經營をやつて貰ひたいのである。此仕事なら山間部で

も又は平坦部でも何處にでも出來ぬと云ふことはないから——。

如何にも有利だと合點が行けば擴張は出來るから、先づ最初は孟宗畑一反歩、淡竹畑、布袋竹畑、大名竹畑、苦竹畑等各一畝歩位宛植付ける。若し卒業生の記念事業にでもよつて、母竹を植付けることにすると、松竹梅と芽出度い上に、更に此上もない記念になる。其の後の手入管理は生徒に實習を課し、肥料は掃除によつて出來た塵芥、並に職員専用の大小便を施せばよい。斯様にして一度成林すれば、反當り少くも、二百圓内外の收入はある。金錢問題は姑く問題外としても、生徒は之れによつて活きた學問が出來る、傍ら伐採した竹材で手工材料が得られる。殊に生徒の熱誠な培養によつて生れ出たタケノコを使つて、父兄會、卒業式、入學式などに、女生徒の料理の下にタケノコ飯などをこしらへて、食膳に上すなどは、至極趣味の深いことである。之れが延びてはタケノコ栽培の誘導ともなるので、實に一舉兩得の方法ではなからうか。

竹は眞ツ直であつて適度に節がある、其の葉は三冬の烈寒にも屈せないで深緑の色を保つて居るから、生徒の教養上にあづかつて力があるなどと、ことあたらしく間接の効用などを述べぬにしても、竹は詩となり歌となり、畫となる如くに、容姿は雅趣に富み、其の優雅崇高な點は、實に何とも云へぬものである。

### 百日の説法屁一つ

タケノコ畑に甘く手入して其收量を殖やすのは、無論收入を増加する方法には相違ないが、それ丈では未だ充分だとは云へない。其の出來たタケノコを高價に賣拂はなくては——。收量を増し價格を向上してこそ、ほんとにタケノコ畑の收入が殖え、收益が増加する譯である。唯だ單に改良——増殖にのみ力瘤を入れて、大事な販賣法に無頓着では、所謂百日の説法屁一つであつて、誠に愚なこと、云はねばならぬ。だからタケノコの栽培者は、時々市場價格を調査して、之から其の値段を算定するだけの

面倒とをとして、勞力とを惜むやうでは駄目である。

若し其の附近にタケノコの栽培者が相當あり、生産量も亦相當の數量に上る場合には、一つ組合を設立して、其名は竹林組合よしたけのこ畑組合よし、たけのこ販賣組合決して悪くはない、兎も角も一つの確かりした團體則ち組合を設立して、賣損ひのないやうに、なるべく高價に販賣するのは極めて利益な事である。其方法としては競争入札によつて、毎日値段を定めて賣るのもよければ、又は初めより終り迄の平均價格を定めて、共同販賣するもよい若くは大都市の青物販賣斡旋所、又は公設市場などに委託して、販賣するなどもよからう。現に宮崎縣宮崎郡瓜生野村平松竹林組合などでは、毎日集まつて來た商人に入札させ、其高價な入札者に販賣し、京都府何鹿郡佐賀村報恩寺竹林組合では早中晩平均の高札者に落札し、熊本縣下益城郡豊田村東阿高竹林組合では、熊本市に出荷して公設市場に委託販賣して、何れも顯著な成績を擧げて居る、先進地京都附近にては、堂々たるたけのこの組合を組織して、京都市は元よ

り遠く大阪、神戸、明石、岐阜、名古屋地方迄に搬出して頗る高價に販賣してゐるものである。

### 氏無うして玉の輿

お客さんからチャホヤ持てはやさせる者は藝者さんではないか。流行を流行をとおふて綺羅を身をまとふ者は藝者さんである。して見ると、幾何學ではないが藝者さんは美しいが爲めに、お客さんがつくると云ふ定理が生れるではないか、それが眞否如何は姑く措くとするも、賣物であるだけのことも亦立派なものを造り出して、人目をひかせ、よだれを流させて高く買はせるのは、販賣上極めて必要の問題である。換言すれば高く賣るのではなくて、先方から高く買はせるのであつて、之れ位賣手の心強い方はなからう、斯う云ふタケノコを生産してこそ、恰も蟻の甘きに集るが如く、賣行のよいタケノコであつて、氏無うして玉の輿に乗る娘さんと好一對ではなからうか。

品質の不良なタケノコを作り出して、金を多く儲けやうとする慾は、尙男の好かぬお多福面の娘さんが、異性の惚れ手を求めんとするのと相似たことで、それこそ勞して効なきの業、敢て賢者の踏むべき安全な道ではなからう。

そこでタケノコ畑所有者としては、其の收量を殖やすと共に、其の品質の優良なものを産出するやうに、其の作り方に十二分の注意が必要である。斯様に考へて來ると組合の事業としては獨り筍の價格を向上させる仕事だけでは、何だか物足りない感じがある。どうしても組合の事業として、講習講話なり品評會なり、視察、調査研究；等の方法によつて、尙一段と品質の向上——收量の増加を計る必要があるではなからうか。優良な成績を擧げてゐる組合は、何れも此仕事を併せて行ふてゐる。以上は主として組合に就いて書いたが、個人としてやる場合でも、同じことである。

### 筍の作り方終

孟竹 宗竹 淡竹 竹方 竹袋布 竹名 竹 大 竹 方 四 竹 苦  
方り作の筍

大正十五年九月三十日印刷  
大正十五年十月一日發行

定價圓八拾錢

著者 宮崎市清水町 大島甚三郎

發行者 東京市赤坂區青山南町六丁目一〇一 田村初

印刷者 東京市牛込區山吹町一九八 大杉直次郎

發行所

東京市赤坂區青山南町六丁目一〇一

文久社書房

振替東京五五五〇番

◇ 行印所刷印杉大・京東 ◇

◇ 目書賣發房書社久文 ◇

林學博士 上原敬二著	林學博士 鏑木德二著	林學博士 上原敬二著	林學博士 上原敬二著
庭記	炭酸肥料講話	ツボトケ造園便覽	最新林業の經營 (附錄 造園學大意)
三判紙裝 二頁	四六判洋裝 二〇〇頁	菊半洋裝 一〇〇頁	三判洋裝 三七〇頁
定價五 十錢	定價二 十錢	定價一圓 八十錢	定價四圓 二十錢

姉妹著を奨む

儲かる竹の栽培法

本書は竹林栽培では日本一と稱せらるる權威者たる著者が多年の研究と實驗に依り、誰にも判る様に竹の栽培法を興味ある筆致にて述べたものである。「一名竹林改良法」といふ。併せて御愛讀を祈る。

◇宮崎縣  
竹林主任

大島甚三郎著

◇好評嘖々◇

四六判三〇四頁  
色紙表紙裝  
定價壹圓八拾錢  
送料八錢

◇ 目書賣發房書社久文 ◇

恩給調査會編著	理學士 原田三夫著	大村豐吉著	理學士 原田三夫著	醫學博士 額田豐著	全國中等學校 國語擔任先生編輯	有門茂著	經濟學士 箭野浩三著
改正 恩給法便覽	科學觀察 登山案内 日本アルプス	日本名所めぐり	山の科學	營養經濟 新安價生活法	日本近代文藝選集	創作阿難	近世經濟學
一四六判紙裝 一〇頁	三五判美裝 二五〇頁	三〇〇判布裝 四六〇頁	四六判布裝 五〇頁	二四六判洋裝 二七〇頁	菊判洋裝 四二〇頁	三四六判布裝 三三七頁	二四六判布裝 二一六頁
送定價八 料四十 錢錢	送定價一圓八十 料八十 錢錢	送定價二 料十 錢圓	送定價二圓二十 料十 錢錢	送定價一圓八十 料十 錢錢	送定價二圓五十 料十 錢錢	送定價二圓八十 料十 錢錢	送定價一圓八十 料十 錢錢

564  
79

終